

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
15	川窪 吉男（30）	<p>1. 富士市立中央病院に高気圧酸素治療装置(HBO)の導入について</p> <p>高気圧酸素治療装置とは、専用の医療機器を使用し大気圧より高い気圧によって酸素を体内に取り込み、病態の改善を図る治療機器であります。</p> <p>私たちは通常、大気圧の下で、酸素濃度21%の空気を吸って生活しています。呼吸によって取り込んだ酸素は血液中のヘモグロビンと結合し全身に運ばれます。</p> <p>一方、高気圧酸素治療は大気圧よりも高い気圧環境で、高濃度の酸素を吸入する治療です。これにより、血液中に直接溶け込む酸素が大幅に増加します。ヘモグロビンを介さずに酸素が運ばれますので、貧血などに影響されることもなく、全身の酸素不足が解消されます。</p> <p>この治療器が適応する疾患名は、急性期医療では、急性一酸化炭素中毒、空気塞栓または減圧症、脳梗塞、また、難治性疾患では、脳血管障害、重症頭部外傷、開頭術後の意識障害等多くの適応症があります。</p> <p>こうした中、日本では高齢化が進み、高齢化率を見ますと、1994年に14%でしたが、2018年には28%と進んでいます。富士市では2011年（平成23年）に21.29%でしたが、2021年（令和3年）には28.03%となっています。</p> <p>このような高齢化の進む中、様々な病気、疾病が発生しています。高齢者に多い疾患名として虚血性心疾患、閉塞性動脈硬化症、脳血管障害、高血圧、糖尿病、慢性腎不全などが挙げられています。中年から80歳までの、上位3位までの疾患名は、大きな変化は見られませんが、80歳を過ぎますと脳血管障害の割合が多く見られます。</p> <p>高気圧酸素治療装置を導入することにより、脳血管障害をはじめとする疾患患者が後遺症を残すことなく、社会復帰ができるとの臨床結果が多くの病院で出ています。</p> <p>そこでお伺いたします。</p> <p>(1) この装置の導入についての見解を伺います。</p> <p>(2) 適応疾患を述べましたが、脳血管障害（脳梗塞）の救急患者は年間何人運ばれてくるのか、お伺いたします。</p>	市長 及び 担当部長